

(様式2)【発表要旨】

＜発表者＞ 指導区名：北薩指導区 氏名：橋口雅浩

1 発表テーマ

さつま町における森林整備の推進

2 テーマの趣旨・目的 <取組課題選定の背景含む>

さつま町では、近年利用可能なスギ・ヒノキの人工林の森林資源が充実し、人工林の伐採面積が年々増加傾向にある。

令和元年度のさつま町の伐採面積は北薩管内で6割を占め、伐採後は天然更新とする場合が多く、再造林率は約2割と低い状態にあった。

特に、県外業者による伐採の占める割合が高く、いかにしてこの県外業者に再造林に取り組んでもらえるかが課題となっていた。

また、伐採が増加する要因のひとつに森林所有者の財産処分がある。町内の人口が年々減少傾向にあるとともに、65歳以上が4割を占めるなど、高齢化が進み森林の管理ができない森林所有者が増えている。

一方、町では近年豪雨災害が多く発生するなど、適正な森林整備による森林の機能維持が求められており、再造林の推進とともに森林経営管理制度を計画的に推進していく必要があった。

3 現状及びこれまでの取組みの成果・課題

① 成果

ア 再造林

- ・伐採届について町と情報の共有化を図り対策を強化。
- ・町との連携強化による伐採者への再造林の推進。
これまで一番課題となっていた県外業者が再造林への理解を示した。
- ・苗木生産者の育成及び需給の意見交換会の開催。

イ 森林経営管理制度

町と連携し以下の内容を決定

- ・町内の意向調査を令和13年度で一巡させる目標を設定。
- ・令和元・2年度に森林所有者へ意向調査を行った「白男川・泊野地区」は、26.45haの委託を受け集積計画を作成。順次森林整備等を実施する計画。
- ・令和3年度に意向調査を行った神子地区は、令和4年度に18.61haの集積計画を作成する予定。

② 課題

ア 再造林

- ・再造林に理解を示した伐採者がでてきた一方で、別の伐採者が増加傾向にあり、再造林率が上がらない。

新たな伐採者の中には再造林への理解を示し、植林や補助金活用を模索したが、結果として人材不足等から断念したケースがあり新たな対策が必要。

- ・森林所有者の意識を変える対策が必要。

イ 森林経営管理制度

- ・町は集積計画を作成し、配分計画に向けて進めているが、施行地にまとまりがないため、請負の要望が少ないと危惧している。

- ・市町村森林経営管理事業で対応する場合に、町が執行する手順等を確立する必要有。

4 今後取組むべき内容

① 具体的手法又は検討方向

ア 再造林

- ・町で令和4年度から再造林に関し、森林所有者への支援を予算化しており、新たな再造林の推進を図っていく計画。

- ・人材不足等で補助事業を活用できない伐採者に対しては、町と協議しながら新たな対応を検討中。

イ 森林経営管理制度

配分計画及び市町村森林経営管理事業の支援を行い、森林整備の推進を図る。

② 理由

これまでの個別による伐採指導や再造林の推進で、一部の伐採者については意識が変わりつつあるため、引き続き実態等を踏まえ、再造林に繋がるような対策を行いたい。

また、年々森林所有者自ら管理できない森林が増加すると考えられるので、町と連携を図りながら、森林経営管理制度を推進し、計画的に森林整備を促進させたい。

③ 期待する成果

今行う森林整備が、次の世代の林業や森林の保全に繋がることが期待される。